

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●桜花賞はデアリングタクトが優勝

4月12日(日)に行われた桜花賞(G I)では、ここまで2戦2勝のデアリングタクト(牝3歳／栗東・杉山晴紀厩舎)が勝利、3連勝を飾るとともに桜の女王に輝きました。無敗のままでの桜花賞制覇は2004年ダンスインザムード以来16年ぶり、史上7頭のこと。デビュー3戦目での桜花賞制覇は、2歳戦が実施されるようになった1946年以降では、1948年ハマカゼ(桜花賞まで2戦1勝)、1980年ハギノトップレディ(桜花賞まで2戦1勝)に続き、40年ぶり、3頭目の最少キャリア優勝記録で「デビュー3連勝での桜花賞優勝」は初のこととなります。

●三浦皇成騎手がJRA通算800勝を達成

4月11日(土)の3回中山5日・第1レースではショウナンバービーが1着となり、同馬に騎乗した三浦皇成騎手(美浦・鹿戸雄一厩舎)は、史上54人目、現役では28人目となるJRA通算800勝(8961戦目)を達成しました。

●ナリタタイシンが死亡

4月13日(月)、ナリタタイシン(牡30歳)が死亡しました。同馬は1993年皐月賞(G I)を制するなどJRA通算15戦4勝の成績を残して引退、種牡馬入り。種牡馬引退後は、公益財団法人ジャパン・スタッドブック・インターナショナル引退名馬整養展示事業の助成対象馬として、北海道日高町のベーシカル・コーチング・スクールに整養され余生を送っていました。

●ブリーズアップセールはメールによる入札で実施へ

JRA育成馬を売却する2歳調教セール「JRAブリーズアップセール」は4月28日(火)開催の予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を防止する観点から、中山競馬場における騎乗供覧およびセリ開催が中止となりました。日高・宮崎の両育成牧場における最新の調教動画がネット配信され、入札はメールによって実施されることとなります。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●令和元年度の地方競馬の売上げが22年ぶりに7000億円超え

令和元年度(平成31年4月1日～令和2年3月31日)の地方競馬の売上げ(売得金)は、前年度比116.2%の7009億7169万1780円と、平成9年度以来の7000億円台となりました。そのうち、電話・インターネット投票は78.0%を占めています。

●読売マイラーズC(京都)に大井のリコーウルサーが登録

読売マイラーズC(G II、4月26日、京都、2着以内は安田記念の優先出走)にリコーウルサー(大井)が登録しました。昨年の福島テレビオーブンで5着と、それなりの芝適性は示していますが、G IIでは荷が重そうです。

●フレッチャビアンカがスプリングC圧勝【各地の主要3歳重賞】

スプリングC(4月5日、水沢、1600m)は、北海道から船橋を経て岩手に移籍したフレッチャビアンカ(牡、父キンシャサノキセキ)が、中団から3、4コーナー中間で先頭に立って6馬身差で圧勝、単勝1.4倍の支持に応えました。ル・プランタン賞(4月5日、佐賀、1800m、牝馬)は、逃げた単勝1.2倍で圧倒的人気のミスカゴシマ(父トーセンプライド)が後続を6馬身引き離し、4度目の重賞制覇を果たしています。

※地方競馬は2月下旬より無観客開催となっておりますが、最新の開催情報については各主催者のホームページ等でご確認ください。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●ザチャンピオンシップス2日目が開催

オーストラリア・シドニーにおける最大の競馬開催である「ザチャンピオンシップス」(今年は4月4日、11日の計2日間で8つのG 1を含む16の重賞を施行)の2日目がランドウィック競馬場で行われました。この日のメインレースであるG 1クイーンエリザベスS(3歳上、芝2000m)を制したのはイギリスから遠征したアディブ(駄6歳、父ピウォタル、W.ハガス厩舎)。22歳の若手T.マーカンド騎手を背に道中3番手追走から直線を向いて先頭に立つと、そこから力強く伸びて2.8馬身差で快勝しました。2着に3月28日のG 1タンクレッドSを勝って臨んだベリーエレガント。日本から参戦したダノンプレミアムは中団追走から直線でいったんはベリーエレガントを交わして2番手に上がりましたが、差し返される形で3着に終わりました。不良馬場の勝ちタイムは2分06秒92。勝ったアディブは、昨年10月にイギリスのG 1チャンピオンSでマジカルの¾馬身差2着に好走(ディアドラがさらに2馬身¼差の3着)。その後、オーストラリアに向かい、今年の初戦となった前走3月21日のG 1ランヴェットS(芝2000m)でベリーエレガントを2着に下して、G 1初制覇を果たしていました。